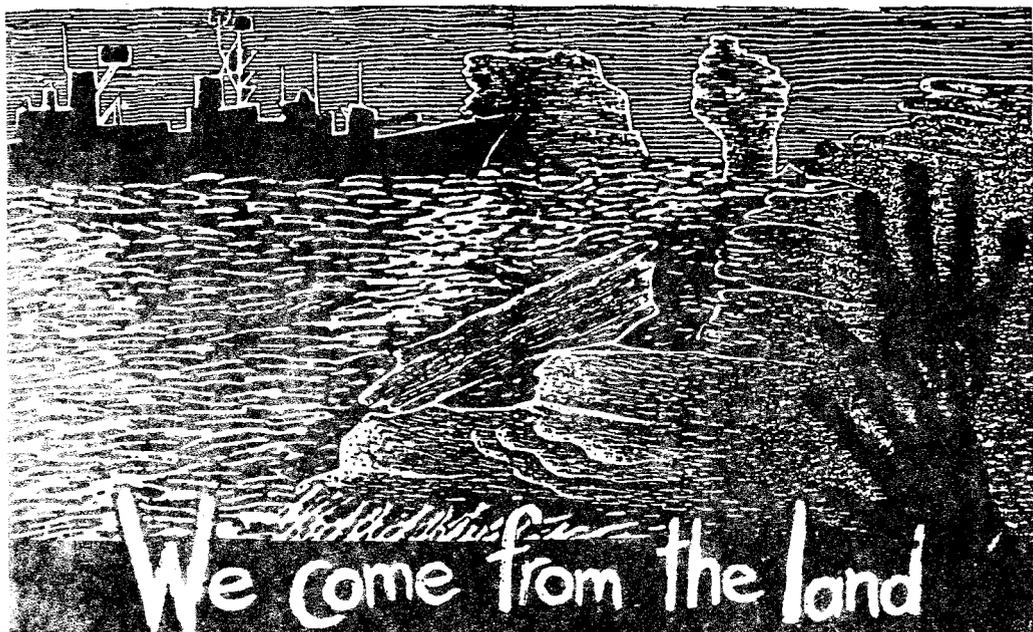


(1988年6月18日第三種郵便物認可)

反トマホーク通信 No. 36

88.10.20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095
044(63)5101



「われわれはこの土地に生れた」 — オーストラリア・ニューサウスウェールズ州ジャービス湾への海軍基地移転計画と闘う先住民アボリジニを描いた同名のドキュメント映画のポスター。

● [報告] 韓国、オーストラリアの旅から

もう一つの国際協力／アジア太平洋情勢の鍵・韓国

(梅林宏道)

● 興奮と感激のシドニー海上抗議行動

(神田公司)

● [体験記Ⅱ] 平和船団の不思議 ● NZレポート

…それはまるで夢のような光景だった

● 広島からのレポート ● 海外消息 (韓国・アメリカ)

トマホークの配備を許すな！ 全国運動

● 維持会員 (月間会費)

団体 1日 2000円
個人 1日 1000円

● 参加会員 (月間会費)

団体 1日 1000円
個人 1日 500円

● 通信会員

年間
2000円

会費は本誌購読料を含みます

あなたも仲間にも！

韓国を考える旅

韓国・オーストラリア報告

梅林宏道 (「全国運動」コーディネーター)

もう一つの国際協力

二隻のトマホーク艦の横須賀母港化に反対する闘いは国際的な闘いであった。ファイフとバンカーヒルをサンジェゴ(アメリカ・カリフォルニア州)で監視し日本への出港をいち早く知らせてくれたサンジェゴのグループが居た。両艦の核搭載について緊急の証言と資料を私たちの座り込みに合せて送ってくれたワシントンの研究者がいた。二隻の母港は日本だけの問題ではなく太平洋の非核化のために日本の市民が闘ってほしいのだと訴えて私たちが助けたトンガの青年がいた。これらすべてが、私たちの運動にかけがえのない力

を与えてくれた。

本当に日本で非核を実現する責任があるという思いが強い。助けられればなれどという思いも強い。と同時に、私たちが助けられているその方から私たちが何かお返しをすることができそうだと勇気も湧いてくる。私たちが助けてくれている人々の気持ちのエッセンスは、同じ一つのテーマに取り組んでいるという国境を越えた市民の感覚のように思える。日本で少しでも運動が前進してほしいという率直な彼らの願望に触れてハッとすることがしばしばあった。もちろん、日本



の現状と日本の運動の責任について痛烈な批判を浴びせられることもある。そんな時、この頃はいつでもその人に精一杯言いわけをする。返す言葉もなだまって批判を噛みしめたい気持ちであっても、洗いざらい自分たちの運動の実態をブチまけて不格好に言いわけをする。そうすると私たちの現状に見合ったヒントが返ってくることもある。身の上相談のような感じだ。

もう一つ、助けてくれる人々にとっては平凡と思われる行為やものであっても、場所と時と形が適切であると大きな力を発揮するこ

とを経験してきた。国際協力の魔法のような力である。タイミングよくこのような協力が実現するためには、外国のそれぞれのグループが必要としていること、提供できることを知ることが必要で反核、反基地運動では少しづつそういう前提が出来つつあるように思われる。

● ●
ファイフ、バンカーヒル母港化反対運動の真最中に、韓国での「平和と統一のための世界大会と汎民族大会」(八月二十二日～二十六日)、オーストラリア・シドニーでの「国際平和ビューロー」(IPB)主催の「イン

アジア太平洋情勢の鍵——韓国

● 韓国の「平和と統一のための世界大会」で何よりも伝えたいのは、民衆のすさまじいエネルギーであった。日本のマスコミの論調に接している限り到底この統一を希求する民衆のパワーを想像することができない。また「民衆と遊離した一部学生の独走」という類いの表現も誤解もしくは意図的な歪曲に満ちている。たしかに、今回の世界大会も、現実的にはまだ局限された運動圏の行事にとどまらざるを得なかった。しかし、それは当局の

ド洋・太平洋地域の軍縮「セミナーと総会」(九月九日～十一日)、そして同じくシドニーでの「海の軍備撤廃を!太平洋運動」(PCDS)の運営会議(九月二十三日～二十九日)に出席した。両艦の入港日がギリギリまで不確定であったため出席の決心をするときは相当に迷ったが、先に述べたような積み重ねの経験が決心の支えになった。

は現実的ではない」と自分の確信を率直に語っていた。「学生はどここの国でも学生だ」とも語り、彼は彼の確信が多数の朝鮮民衆の選択になるに違いないと信じているようであった。私の説明では彼の考えを変えることができなかった。彼のような立場の人物に、韓国の闘いの現実と直接接する機会をつくることに極めて大切なことだと思われた。平和的な共存、南北のクロス承認という考え方が、朝鮮半島から遠く離れば離れるほど良心的な人々の中に強く存在していると思われるからである。

今回の旅行では、オーストラリア滞在期間も含めて韓国の核の問題が一つの一貫したテーマであったと思う。限られた紙幅なのでこのことに絞って報告したい。

● シドニーのPCDSの会議に韓国から印明鎮(イン・ミョンジン)牧師が出席した。私と熊本の神田公司君と印牧師は同じ部屋で起居をともした。印牧師との会話の中で印象に残ったのは、韓国の軍政への逆コースはないという楽観論であった。オリンピックのあと締めつけがあるという見方があることを認めていたが、彼は逆コースはもはやない、と確信しているようであった。彼はまた、反核、反戦運動が民主と統一にむかう韓国の運動全体の新しい戦略的課題であることが、いまや運動圏の人々の誰もが確信していることであることを雄弁に語った。一年前には想像もつかなかった変化だそうである。それだけに、昨年の六月闘争でかちとった「自由空間」

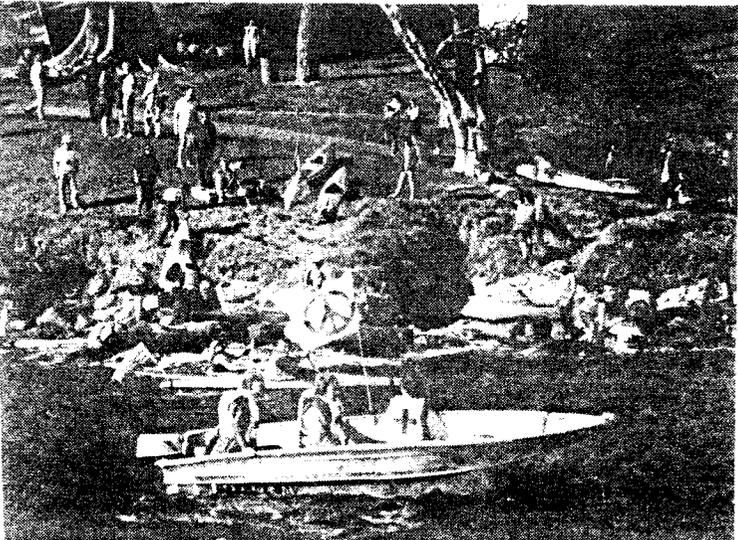
この経験は、運動交流の大切さを物語っている。メルボルンで労組の代表者で平和運動の最も熱心なリーダーである人物と食事をしたとき、彼は「体制の異なる南北朝鮮の統一



これにゲストとしてシドニー大学のピーター・ヘイズ、グリーン・ピースの女性がいろいろ話してくれた。

二十四から二十七日は核艦船の入港反対の集会和行動が華々しく展開された。とりわけ二十六日の行動は印象深い。

この日の早朝、ネルソンの友人が持っているヨットで一路シドニー港へ。雲ひとつない晴天の中、続々と軍艦が入港しようとしてい



た。

オーストラリア政府は建国二百年を記念して、十月一日に世界の軍艦を集め、パレードを計画していた。その中に戦艦ニュージャージーといくつかの核艦船が含まれていた。

シドニー名物オペラハウスのすぐ近くで抗議の闘いが展開された。カヌー六〇隻、ヨット、ボートを合すると百隻になった。

「シドニー平和船団」の紅色の旗がはため

き、グリーン・ピースの高速ボートが核艦船に接近する。カヌーがまるで蟻のように動き、船を包囲する。警笛を鳴らし、これを排除しようとするポリスの船。すぐ近くのミセス・マッコーリーの岬からは「NO NUC」を繰り返す人々が大声を上げた。ヨットに乗ったのも初めてならば、核艦船に接近しての抗議闘争も初めて、私は興奮と感激の中にいた。

シドニー港に三時間いただろうか、我々のヨットが引き揚げるときはまだ軍艦が続々と入港していた。その時、日本の自衛艦の「しまゆき」と接近遭遇した。ここは日本語で呼びかけようと私が大声を張り上げた。「海上自衛隊の諸君！シドニー港から出てゆけ。核戦争への協力をやめよ！」ととっさに口から出た。そうしたら、艦上に整列していた水兵の隊列が乱れ、一斉にこちらを向きはじめた。この光景をそばで見ていたネルソンがあとでみんなに楽しそうに話してくれた。まさか私も自衛隊に呼びかけるとは想像もしていなかった。

シドニーはどうでしたかと帰って聞かれるが話すと一時間も二時間もかかるので困ってしまう。見るも聞かすもすべてが初めてだった今回の旅で言えることは「太平洋から日本(九州)を考慮することができた」ということが最大の成果だということである。



シドニーのPCDS会議。右から三人目がピーター・ヘイズ氏。

の中に、数え切れないほどの自立した反核運動グループが生れていることも語っていた。この状況は韓国の運動が過去に一度も経験したことのないものであり、運動のインテグレーション(力がまとまって総合されること)が重要な課題になっているとのことであった。

●韓国のセミナーで私は朝鮮半島を包囲している海洋核の重要さを訴えたが参加者の関心と噛みあっていない印象を受けた。シドニーで印牧師は、海洋核という観点は韓国の反核運動には全く存在していないと語っていた。

おそらく彼がシドニーから持ち帰る最も重要なテーマになると思われる。

IPBにもPCDSにも、ノーチラス研究所のピーター・ヘイズ氏(昨年、朝日新聞社から彼の著書「アメリカン・レイク」の訳書「核戦争の最前線・日本」が出版された)が参加した。彼はここしばらく太平洋情勢全体を規定する場所として朝鮮半島の重要性を繰り返して強調した。よく知られているように韓国の指揮権は米軍が握っている。そして韓国軍は核戦争を担う軍隊として訓練を受け続

けてきた。ピーター・ヘイズ氏は指揮権の返還や在韓米軍の(一部)撤退に伴う韓国軍の核武装を懸念する。対北の論理のみならず日本に対する優位性の確保も含めて、韓国軍指導層の中に核武装の論理が根強くあると彼は分析する。

韓国の反核運動、それと密接に関連せざるをえない日本の運動は、新しい意味で重大な時期を迎えつつあることを感じる。

(「軍縮問題資料」十二月号もご参照ください)。

興奮と感激の

海上抗議行動(シドニー)

神田公司(熊本市民センター)

九月二十日朝、シドニーに到着。ニック・マクレランが迎えにきてくれた。

二十一日、シドニーの中心地セントラル駅の近くのクエーカー教の集會場でPCDSの運営會議が始まった。本当にレジュメを見て驚いた。會議はつかり。私はレジュメを辞書で読むのが精一杯。會議の要旨は後から梅林さんに教えてもらうことにした。

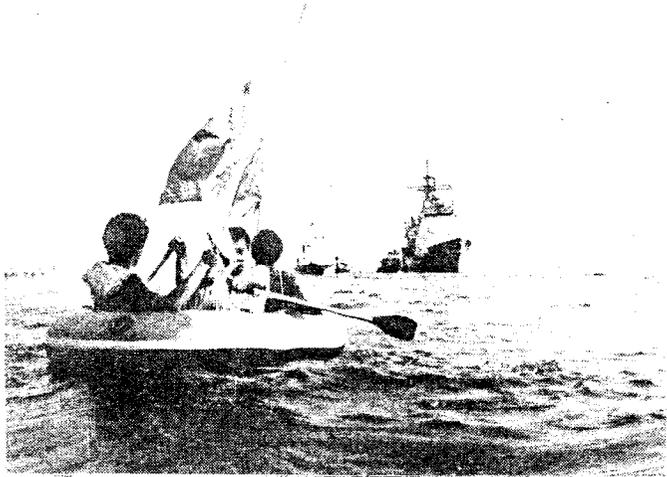
ユニークだったのは會議の運営であった。一人一人の家庭環境・仕事の内容を話し、それから討議をしていく。

参加者は主に十人。ネルソン、キャロルがUSから。フィル、パティがカナダから。ジョー・ヘイターがオーストラリアから。ニッキー・ハーガーがNZから。イン・ミョンジンが韓国から。日本からは梅林さんと神田

平和船団のふしぎ

それはまるで夢のような光景だった

平良暁生
(農村伝道神学校生)



*「かざぐるま通信」(日本キリスト教団神奈川教区核問題小委員会発行)第六号より転載

八月三十一日朝、横須賀に核ミサイル「トマホーク」を積んだ二隻の米軍艦が入港しました。「ファイブ」と「バンカーヒル」です。前の晩、入港抗議の座り込みをしていた時、海上デモのゴムボートに乗ってくれと、突然の依頼を受けました。「人殺しはやめよう」「人殺しの準備もやめよう」と訴えたくて、横須賀までやって来たのですが、実は私は全く泳げないのです。乗るか乗るまいか考えているうちに朝になってしまい、頼まれると断れない気弱な私は、ポンプでボートをふくらませながら、残される新妻?のことを想っていました。

朝七時過ぎ、三隻のゴムボートに総勢七人が分乗して、我々が平和船団は静かに水面におろされました。まだトマホーク艦の入港予定時刻まで二時間もありませんでしたが、警察によ

る妨害を避けてそんな時間に、臨海公園のある場所から、こっそり漕ぎ出したわけですが、波も風も殆どない湾内を進とまもなく、左側に突ったへ先を並べて停泊している小山のような自衛艦七隻。どれも大砲はこちらに向けていますが、私たちのちっぽけなボートに気も付かないのか、乗組員たちは与えられた任務に忙しそうです。右側にはぼっかり浮かんだ潜水艦たちが、さながらクジラのようにいます。その後ろには、あの空母ミッドウェイがいました。最初は二隻の船かと思えたほどの巨体で、さん橋に繋がれ、煙を吐き上げています。陸からでは覗くことのできない横須賀基地の軍備の規模の大きさを目の当りにした気がしました。眠れる獅子たちの鼻先をソツとやりすくとして、やっとなり口の入口にたどりついたときに突然、こちらに向かって白波をけたてて突進してくるボートがあります。それが、以後四時間にもわたるイタチごっこを繰り返したその相手、海上保安庁の巡視艇でした。

結局(特にカナヅチの私にとっては)決死の入港阻止のオールさばきも、群がる巡視艇のしつような妨害によってさげざられてしまいました。そして二隻のトマホーク艦は口惜しくも、安保条約が敷いたレールの上を滑るように、何事もなかったかのように、私た

ちの見ている前で入港を果たしたのでした。

思えば小さなねずみが巨象に挑んだような無茶なデモ行為であったかもしれませぬ。しかし平和船団の七人は大きな満足感と手応えを覚えて帰ってきました。それは、やるだけはやったサ、という自己満足の思いではなく、私自身予想もしていなかった、人間との出会いの体験がそこにあつたからです。

デモに機動隊はつきものです。普段彼らはヘルメットで顔をおおい、一言も喋らぬ口と人間的な感情を捨て去ってしまったかのような目の色をしています。機動隊が物言わせるものといえは、それは嫌な音を立てるジュラルミンの盾と、振り上げられるコン棒ぐらいなものとの相場は決まっています。彼らは無名氏であり、組織の一部でしかありません。ところが、信じがたいことに、この日海の上の彼らは暖かい血と心を持った一個の人間として、私たちの前に存在していたのです。保安庁の船はどれも警察に貸切られており、それぞれ六人くらいずつ機動隊員が乗っていました。私たちのゴムボートと、その行方を阻む彼らの船との距離は終止二・三メートルしかありません。ぶつかってしまうことも度々でした。それだけに至近距離にいたのですから、四時間近く私たちと機動隊員たちとは「肉声」で言葉を交わし続けることができました。い

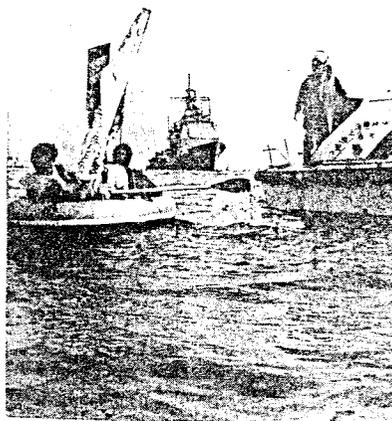
つもなら鉄のような冷たい表情しか見せない彼らであっても、小さなゴムボートが三つ、一万トンの軍艦の前のぼりを立てて立ちぶさがろうとしているのです。ちよつと滑稽なデモ隊の珍入に心もいくらかゆるんだのでしよう。それにゴムボートは船舶としての規制を受けないこともあって、荒々しい警告が行使できなかったこともありましょう。機動隊員たちは苦笑いをしつつも盛んにこちらの安全を気遣って窓から首を出して優しい声をかけてくれるのです。

そんな隊員たちに向かって、市民の会のNさんは、喉から血が出るほどまでに語りかけ続けました。Nさんは、核兵器の恐ろしさや、国民の声を無視した入港の不当性、そしてその米艦船の護衛に、「心ならずも」当たらされてる保安庁職員や機動隊員への同情といったわりの言葉を、まるで親友にでも語りかけるように熱く訴え続けたのです。初めは巡視艇に対してヤジを飛ばしていた私も、デモにはおおよそ場違いとも思えるNさんの口調に、魂を揺さぶられ、しばし聴き入ってしまいました。そこには、高波への注意をうながしてくれる機動隊への感謝があり、平和学習会の発表の提案や誘いかけの言葉がありました。そして自分らの目の前でここまでまごころから語りかけられては何も答えない訳にもいか

なくなり、隊員も何言かを返してくるのです、口ごもりながら!

こうして、言葉のやりとりは双方の心を開いていきました。名前が名乗られました。そしてもつと感動的なことに別れ際には名乗った名が実は嘘であることが本人の口から告白さえされたのです。誰だって優しい言葉はかけられたいものですし、誰だって良心を胸に秘めているのです。「ありがとう」を叫びながら又会いましょうと手を振る平和船団を、静かに半円状に並んで見送る巡視艇たちの姿は、夢のような光景でした。

お互いの視線を交わし言葉を交わす時に、心に通じあう何かが生れてしまうのです。(だから警察の人はいつもは目を外し口をつぐむ)。もし、しばしば行われるデモのように問答無用の盾やコン棒に対してこちら側も罵り雑言や火炎ビンで応酬するようなデモで



あったなら、そこにはひとかけらの連帯感も問題の共有も起こってはこないでしょう。今、核兵器反対に立ち上がることは人類全体の課題でなければならぬ苦難の道です。私たちの生命も当然！核の恐怖から何としても守らなければならぬ苦難の道です。

平和を求める平和船団。目的が平和ならば手段も平和でなければ。それを私に「可能な事なのだ」と教えてくれたのが平和船団です。次回ももっと大勢の仲間、年寄りや女性や子供たちも皆んな一緒に、風船や花や千羽鶴を手手に、海にくり出せたら、と思います。

ヒロシマも燃えまします。

横原由紀夫

(ピーススピリット88広島実行委員会)

挑発しているようである。

8月10日にブルーリッジが呉に寄港すると報道される。9日、呉地区労抗議集会、10日ピーススピリット、88が呉港Fパース前で抗議集会、12日呉市、19日広島県に対して「核トマホーク艦寄港反対」の署名約12400名分を提出し交渉を行なった。

核トマホークを計17発搭載しているファイフ、バンカーヒルが横須賀に新たに配備されるため米・サンジエゴ港を出港したとの情報も伝わる。なんとか阻止するために抗議行動を行なわねばならないと相談。8月21日、原

転載を快くご承諾くださった「かざぐるま通信」編集部と平良さんに感謝いたします。編集部



爆ドーム前で約30名が座りこみ。28日、広島市の商店街・本通りを約40名でデモ行進。ギター、タイコを打ちならし、トマ喰い虫の歌で市民にアピール。30日、ピーススピリット、88のメンバー12名で広島市と交渉した。

8月31日、ついに横須賀へファイフ、バンカーヒルが入港。広島では、早朝7時30分よりバスセンター前で反トマホークのチラシを配布し市民にアピール。正午から1時までの1時間、広島県庁前で座りこみと抗議集会。緊急行動ではあったが、労働組合も参加して約30名でアピールを行なった。

核トマホーク艦が横須賀を母港とし、呉港へも寄港する。ヒロシマが核ミサイルの発射基地になることを許してはならない。今も、約36万人の被爆者が放射線後障害に苦しんでいるのだ。

トマホーク艦に関する資料を広島県議会全議員に発送。9月26日から始まる県議会で、

せ、海の非核化を達成しなければならぬ。世界で最初に核戦争の犠牲となった日本、広島への使命である。

場内にあるコンベア社に貸与された生産施設は、ソ連の査察団に公開された施設の一つであり、この二月二日から三日にかけて査察団の一つの訪問を受けた。この施設はかつて条約の廃棄リストにある空軍トマホークの移动式発射台の組立てを行っていた。

コンベア社の広報担当者ジャック・イサベルによれば、条約が発効した時点で、すでに空軍トマホークの配備はすべて完了していたので、この査察は工場の機能に何ら影響を与えるものではなかった。

同氏はまた、廃棄されたトマホークの部品が将来のミサイルの製造に影響を与えるか否かを公表したのは時期早尚であったと語った。現在、コンベア社は、一九八八会計年度に海軍が発注した三三二基のトマホークの七〇%を、二億八千五百万ドルの契約に基づいて生産している。一方、残りの三〇%を生産しているのはマクダネル・ダグラス社である。

海外消息

しりぬけの「INF全廃」

トマホークの核弾頭を海軍が再利用

(見出しは編集部)

「トリビューン」(サンディエゴ)

1988・8・11

米ソ中距離核戦力(INF)条約によって廃棄が義務づけられた空軍の核弾頭付き巡航ミサイル・トマホークの部品の一部が海軍に移管される模様である。これにより一億千四百萬ドルの税金が節約される。

社会党が代表質問で取り上げ、県知事を追及することにしている。ピーススピリット、88は発展的に解散し、恒常的に反トマホークの行動を続けるための

連絡会議を結成することになっている。10月には、呉港寄港に抗議する大集会を開く準備をしている。何としても、日本政府の軍拡政策を変更さ

ワシントンの国防総省巡航ミサイル開発事務所のスーザン・ホプキンス報道官が昨日語ったところによれば、この金額は同条約の規定によって破壊する義務を負わない、部品および誘導システムの推定額に相当する。

同報道官によれば、これらの一部はゼネラル・ダイナミック・コンベア(サンディエゴ)および、マクダネル・ダグラス(フロリダ州ティトゥスビル)の各工場へ、また一部は軍の兵器廠に返送されることになる。

空軍所属のトマホークは同ミサイルの地上発射型で、射程距離は一五〇〇マイル(二四〇〇キロ：訳者注)。INF条約は水上艦船や潜水艦から発射される海軍の同種のミサイルには言及していない。

ワシントンにある米國中距離核戦力現地査察事務所の広報官ケンドール・ピース海軍大佐は、空軍所属のミサイルの核弾頭は米国防工省によって再利用されると思われるが、海軍のミサイルに取り付けられる可能性もある、と語った。

パシフィック・ハイウェイの空軍第一九工

会計報告

(88.9.4~10.24)

[収入]	
○前月からの繰越	△554,386
● 経常繰越	△178,386
● 借入金繰越	△376,000
○会費収入	168,000
● 維持団体	78,000
● 維持個人	33,000
● 参加団体	0
● 参加個人	9,000
● 通信会員	48,000
○カンパ収入	56,000
○在庫品売り上げ	15,220
○反核ホットライン売り上げ	10,950

<計> △304,216

[支出]	
●家賃(9,10月分)	80,000
●光熱費	15,025
●電話代	80,765
●郵送費	94,465
●文具費	9,200
●印刷費	45,300
●研究・資料費	21,000
●会場費	4,800
●雑費	2,850
●反核ホットライン経費	700
●郵便振替手数料	1,960
●次月への繰越	△660,281

<計> △304,216

いつもご協力ありがとうございます。カンパ、会費の送金、引き続きよろしくお願ひします。(事務局)

動というのとはどのようなものなのでしょうか。わたしはまさにその『草の根運動』について話していたつもりだったのですが……。

——いかに日本人的な話ですね(笑)

「ともかく、わたしたちにとっては草の根運動が平和運動そのものであって、ほかの形態を知らないわけです。政党や労働組合も、(日本のように)平和運動を指導するものではなく、幸いにといいいますか、逆に平和運動に指導される立場にあります。わたしたちはずっとこういうスタイルでやってきたし、それはわたしたちの運動にかなったやり方だと思っています。それゆえに(国の非核化に)

成功したのだともいえるでしょう」。

機構ではなくネットワークで

かくいうウィルクス氏も、「アオテアロア平和運動」の「専従」であって「代表」ではない。驚くべきことに「アオテアロア平和運動」には、理事会も中央委員会も事務局も、およそ機構といえるものがほとんどない。わずかに、各地方の中心的活动家十数名を網羅した「運営委員会」的なものがあるが、彼らとそれぞれの地方の、いわば連絡役といった位置づけである。

このような一見信じがたい「非組織性」は、

しかし、ウィルクス氏も言うように「ニュージーランドのやり方としてかなっている」のであろう。「アオテアロア平和運動」のあるピースハウスは、軍事費削減を求める女性たちの会や、フィジーのクーデターに反対する市民グループ、アムネスティのメンバーなどが入れかわり立ちかわり訪れては、話をしたり会合を持ちたりしていた。そのような開かれた空間として、また多様な平和グループを蜘蛛の糸のように織りあがらせる中心として、「アオテアロア平和運動」はかけがえのない機能を果たしているように見える。

毎年十月下旬、労働祭の連休にかけて、彼(十二ページ下段につづく)

非核の国ニュージーランドの草の根平和運動(2)

山田紀子

(第三十四号より続く)

ニュージーランドの平和運動を見わたしてまず驚くのは、その徹底した「草の根性」と「非組織性」である。

「アオテアロア平和運動」の役割

ピースウォーク後、首都ウェリントンに南下して、「アオテアロア平和運動」の事務所を訪ねた。「アオテアロア」とはニュージーランドのマオリ語名で、先住民マオリの文化を尊重しようとする姿勢がこんなところにも見てとれる。

いずこも同じ雑然とした事務所を迎えてくれたのが、国際的に有名な平和運動家オーウェン・ウィルクス氏。ノルウェーやスウェーデン(ストックホルム国際平和研究所・SIPRI)での研究生活も長く、軍事通信基地についての世界的権威でもあるが、いつも短ズボンに運動靴、自転車出勤が信条のユーモ

アあふれる好人物である。有機菜園のある高台の自宅におじゃまして、下手な英語でぼつぼつ質問を試みた。

——ニュージーランドの平和運動の「草の根性」がよく言われますが……

「現在ニュージーランドの三五〇にのぼる平和グループは、そのほとんどすべてがいわゆる『草の根』のグループ、つまり普通の市民が地域で自律的に活動を行っているものです。中央機関が何かを決定して、下に指令を流すということはない。『アオテアロア平和運動』は、ニュージーランドの平和運動の代表的な組織と見られていますが、その主な活動はあくまで運動の連絡調整であって、方針や決議を出すといったことは決してしません」。

「すべてが草の根」のニュージーランド

——日本の平和運動のあり方とはずいぶ



「人々が指導すれば指導者たちがついてくる」(ピースウォークの横断幕)

ん違いますね。

「ええ、私が行ったときにもそう感じました。ある平和団体でニュージーランドの平和運動について話したときのことです。話が終わるやいなや、その団体の代表格の人が、いかに日本人的な謙譲さといんぎんさでもって、こう質問したものです——『ニュージーランドの全般的な平和運動については、だいたいわかりました。で、お国の草の根運

だれでもどこでもできる

デイビス・レポートの広め方

②

現在、日本で非核自治体はどのくらいの数になるかご存知ですか？ 今年七月末で、なんと一三一五、全自治体数の三分の一にのぼり、そこに住む人は国民の六五%を占めています。この一三一五という数は、第二位のイタリアの六五〇を大きく引き抜き、世界のトップに立つものです(非核自治体ネットワーク調べ)。

核事故をアセスメントする会では、これらの非核自治体のうち、非核行政に関する全日本自治体労働組合のアンケート調査(一九八七年)に回答を寄せた五六二の非核自治体に、デイビス・レポートのちらしと、葉山峻・非核年宣言自治体連絡協議会会長(藤沢市長)の推薦文を送付、非核行政の基礎資料として購入を呼びかけました。

その結果、神奈川県が二百冊の大量購入を行ったのをはじめ、広島県・横須賀市・藤沢市(神奈川県)・堺市・忠岡町(大阪)・上福岡市(埼玉)・浦安市(千葉)・高知市・遠野市(岩手)・熊野市(三重)・十文字町(

秋田)・遠方町(北海道)・落合町(岡山)・江釣子村(岩手)・北中城村・読谷村(沖縄)などが、あいついでデイビス・レポートを注文してきています。

皆さんの住む自治体でも、防災関係課や議会図書館を通じて、デイビス・レポートを購入するよう働きかけていただけませんか。宣伝グッズの請求などは、

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九
バル青山五〇二

核事故をアセスメントする会

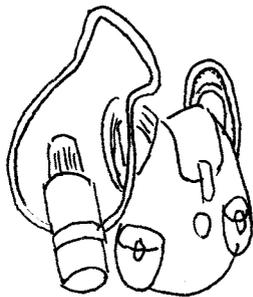
☎〇三―四九八―六〇九五

前号で地域図書館への購入希望のすずめを書きましたが、これまでデイビス・レポートの注文のあった図書館は次のとおりです。

衆議院調達係図書館・東京都立中央図書館
同日比谷図書館・防災専門図書館・四国学院大学図書館・堺市役所議会事務局図書室
葛飾区亀有図書館・千葉市書店協同組合たかす図書館。

(十一ページより)

らは(「総会」ならぬ)「全国平和ワークショップ」を、風光明媚なキャンピング地で開催する。二泊三日のこのワークショップの柱は、経験交流と話し合い、登山や水泳のレクリエーションといったものだが、百人を超える参加者が全国からつどい、和気あいあいとした雰囲気三日間をともに過ごす。ニュージーランドの平和運動の縮図をそこに見るような気がして、わたしはますます心引かれていくのだった。(つづく)



月刊反トマホーク通信 No 36

一九八八年一〇月二〇日発行

*発行 トマホークの配備を許すな全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九バル

青山五〇二 トマ喰い虫社

☎〇三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五一〇一

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)

